

番 号	10321
効用の種類	ふれあいによる生理・心理的効用
タイトル	認知症高齢者に対する園芸療法の有効性に関する研究
概 容	<p>認知症高齢者に対する園芸療法の効果を、社会的側面、身体的側面について科学的手法を用いて調査した。対象者は認知症の高齢者38名とし、これを園芸療法実施群、音楽活動導入群、アクティビティケア非導入群の3つに分け、改訂長谷川式簡易知能評価尺度(HDS-R)、痴呆行動障害尺度(DBD)、N式老年者精神状態尺度(NMS)、N式老年者用日常生活動作能力評価尺度(N-ADL)、社会不適応尺度(SDRS)、骨塩量値、感想などから検証。その結果、認知機能の変化では園芸療法実施群のDBDの平均点が有意に減少し、精神状態の変化についても有意に増加した。園芸療法実施群では、身体機能の変化としてはN-ADL、骨塩量ともにやや改善し、社会的機能の変化については全員のSDRS得点が減少し有意な変化が認められた。感想も概ね園芸療法を歓迎するものであり、園芸療法が認知症高齢者の心身機能や社会的機能に有効に作用することが示された。</p>
内 容	<p>(目的)  高齢者に対する園芸療法の効果については、心身機能や社会的機能の改善等多様な効果のあることが報告されているが、認知症高齢者に対する園芸療法の効果の詳細については明らかになれていない。そこで本研究では、認知症高齢者に園芸療法を適用し、認知機能や精神機能の変化のほか、社会的側面や身体的側面への効果に関して科学的手法を用いて調査した。</p> <p>(調査方法)  対象者は、認知症高齢者グループホーム(以下GH)3か所の認知症高齢者で、園芸療法導入のGHの高齢者13名(A群):男性5名、女性:8名、平均年齢84.4±5.0歳、音楽療法導入のGHの高齢者10名(B群):男性4名、女性6名、平均年齢82.3±5.3歳、アクティビティケア非導入GHの高齢者15名(C群):男性4名、女性11名、平均年齢83.1±5.3歳とした。3ヶ月間、A群には週1回1時間程度(計12回)の園芸療法を、B群には週2回1時間程度(計24回)の音楽活動が導入された。C群では生活援助のみ行われた。調査項目は、改訂長谷川式簡易知能評価尺度(HDS-R)ならびに痴呆行動障害尺度(DBD)、N式老年者用日常生活動作能力評価尺度(N-ADL)、社会不適応尺度(SDRS)、骨塩量値、毎回の感想と全体を通じた感想の聴取。</p> <p>(結果および考察)  認知機能の変化では、A群のDBDの平均点が有意に減少した。B群では得点の減少傾向が示された。C群はほとんど変化がみられなかった。精神状態の変化についてもA群の平均得点のみ有意に増加し、反対にC群では有意な低下が認められた。身体機能の変化としては、A群ではN-ADL、骨塩量ともにやや改善した。B群では骨塩量値は上昇傾向を示した。社会的機能の変化については、A群の高齢者全員のSDRS得点が減少し有意な変化が認められた。反対に、B群、C群の得点はともにわずかな増加を認めた。</p> <p>以上より、園芸療法適用群では導入後の調査で認知機能や精神機能、特に社会的機能の改善が顕著に認められるなど、園芸療法が認知症高齢者の心身機能や社会的機能に有効に作用することが示された。一方、音楽活動を取り入れたGHの対象者たちの場合には骨塩量値が増加するなど、音楽活動により身体機能の維持が図られたことが示唆された。アクティビティケアの導入がなされなかったGHの場合にはNMSの得点が有意に低下するなど、認知症高齢者の心身の活性化において生活援助だけでは限</p>

表1. 各対象者群別にみた心身の障害と疾患の内訳(人)

	身体的事項																	会話 支障	
	身体機能の障害				現病歴							既往歴							
	歩行	視力	聴力	麻痺	高血圧	悪性腫瘍	心疾患	糖尿病	脳血管・神経疾患	骨・関節性疾患	精神疾患	高血圧	悪性腫瘍	心疾患	糖尿病	脳血管・神経疾患	骨・関節性疾患		精神疾患
A群 (n=13)	5	2	5	0	5	3	1	3	1	1	0	1	1	1	0	4	0	3	3
B群 (n=10)	3	3	3	3	5	0	4	2	5	3	0	1	1	0	0	2	0	0	6
C群 (n=15)	2	1	8	0	8	0	1	0	1	3	3	0	1	1	0	2	0	1	4

表2. I期からII期における各対象者群の心身機能ならびに社会的機能の変化

	認知・精神的機能			身体的機能		社会的機能
	HDSR	DBD	NMS	N-ADL	骨塩量	SDRS
A群 (n=13)	—	0.035*△	0.032*△	—	—	0.001**△
平均値の変化	10.7 - 10.8	24.1 - 15.9	30.4 - 34.1	37.6 - 39.6	50.9 - 53.2	65.1 - 53.0
B群 (n=10)	—	△	—	—	△	—
平均値の変化	11.9 - 12.0	17.4 - 15.2	24.6 - 26	33.0 - 33.9	58.4 - 65.9	65.5 - 66.7
C群 (n=15)	—	—	0.016*▽	—	—	—
平均値の変化	15.5 - 15.2	32.1 - 30.1	31.2 - 32.1	38.7 - 37.7	57.9 - 57.8	66.7 - 68.3

△:改善 —:同等もしくは上下10%範囲内 ▽:悪化 \*p<0.05 \*\*p<0.01

\*本研究は平成16年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)15390678により行なわれた。

出典

人間・植物関係学会雑誌 第5巻 別冊:20-21,2005年  
安川 緑、千葉 茂、伊藤喜久、森谷敏夫、大澤勝次、広井良典

備考